

# ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

わかちあうということ

～これまでのこと、これからのこと～

30

男女共同参画社会をめざす

# 男女共同参画センター“ひらく”最近の動き

## センター便り・No.14

### 男女共同参画推進実行委員になりませんか？

小平市男女共同参画推進実行委員会は、公募市民として小平市が推進する「男女共同参画社会」づくりに向けた取り組みを市と共に実施しています。実行委員会には、3つの部会があります。

#### ・ひらく部会

あなたが今、読んでいる広報誌『ひらく』（年2回発行）の企画から取材、原稿執筆・写真撮影・デザイン・校正など、編集作業を全部やっています。

#### ・フォーラム部会

有名な講師を招いて年1回行う「女と男のフォーラム」と男女共同参画について市民が学ぶ「女と男の参画講座」（年4回開催）のテーマを決めたり、講師

を選んだり、参加者を集めたり、司会をしたりします。

#### ・センター部会

小平市男女共同参画センターをたくさんの方に知ってもらい利用してもらうために、施設の活用を考えたり、「センターだより」（年2回発行）を作成したり、年3回オープンする「カフェひらく」を手伝ったりしています。

平成24年度の小平市男女共同参画推進実行委員は、3月20日号の「市報こだいら」や市のホームページで募集します。どなたでも、やってみたいと思ったら応募できます。どの部会に入るかは、自由に選べます。

### ひとひと「女と男の参画講座」の報告

1月15日、21日、28日、2月4日に参画センターにおいて「さあともにわかちあおうよ！」というタイトルで、寺本建雄さん（舞台構成、演出家）、谷口英子さん（心理カウンセラー）、井上治代さん（東洋大学教授）を講師に招いて、「楽しさ」「こころ」「生きること」を分かち合うことの大切さ、気持ちよさを学びました。



被災松で作ったギターで演奏する寺本建雄さん

## ピースボート乗船！

両方 仁子

（元小平市子ども家庭支援センター長）

空の青  
海の碧とが  
混じり合う  
水平線を  
地球一周

(SATOKO)



全員参加で“赤道まつり”

ピースボートに乗船することになった。一年前のことである。そして今、あの3か月が何だったのかと振り返る。

乗船中、3月11日の東日本大震災を遠く大西洋上で知った。飛んで帰りたい人がいても、船上のジレンマ。続く福島原発事故の悲惨に身が震えた。リビア内戦の報に寄港は安全が計れず中止。急遽サウジアラビアが受け入れを決めてくれた。エジプトは国として安全を確保するので上陸、観光するようにとの連絡が入った。多くのハプニングに満ちた旅であった。

地球上には想像し難いくらい貧しい国がある。私達が少し協力することで尽力できる国々もある。寄港先で訪問しては、母親や子ども達と交流し励ましを実現してくれた若者力に目をみはった。励ま

した側の青年達が3か月の船旅で成長する姿をも目撃し、感動を味わうことができた。

船内のプログラムは、毎日取りきれないほど豊富にあった。それらの中で私が考えさせられたのは平和問題であった。40年前から原発問題を考え、脱原発を叫んでいた人達がたくさんおられた。それらの方々の運動について何も知らずにいた自分に対する反省から、その運動に加わる決心をした船旅であった。船を下りても出会いの輪が広がっていると便りが届いている。

既に次のクルーズは出航し、旅は続いている。海と意味のある船旅に出会う計画を皆さんにもお勧めしたい。



# ひらく

第30号

平成24年3月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課  
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 笹 和紀  
笹尾かをる 佐野 里美 坂岸 真子  
鈴木 裕子 谷原 裕子 藤澤 則子

(左)「赤道まつり」に向けて絵を描く(本人)



(右)タヒチのNGO「ヒティ・タウ(いま立ち上がるとき)」の農場訪問。

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。